

● 開催日：2004年6月23日(水)～24日(木)(2日間)

● 開催場所：社団法人 東京アメリカンクラブ

● 主催：国際サービス・マネジメント協会 ● 後援：経済産業省

ユーティリティー・コンピューティングに向けたITサービス事業の挑戦 —新たなパラダイムの中でいかに生き残るか—

● 背景

IT サービス事業は、いま大きな転機を迎えようとしています。この実態は、水面下で静かに、しかも着実に進行しています。そして、これが眼前に現れた時には、準備不足のIT サービス企業は、“他社に駆逐されてしまうかもしれないパラダイム”の中にいることになります。私達は今、『ユーティリティー・コンピューティング』と呼ばれる新たな環境へのパラダイム・シフトに入っています。

『ユーティリティー・コンピューティング』では、従来、ユーザー企業が保有していたITリソースが“インターネット・データ・センター”(iDC)を中心としたネットワークの向こう側へ移行してしまうことが特徴です。そのため、多くの場合、従来のユーザー企業は、主要な顧客ではなくなります。米国では、次のような予測もされています。

- 従来の顧客の三分の一は、自社のデータ・センターから米国内のiDCへ移行する。
- 他の三分の一は、「オフショア・アウトソーシング」(インド、中国などのiDC)へ移行する。
- 残りの三分の一が、自社のデータ・センターを使用し続ける。

このような変化は、米国でのスピードではないにしても、我が国でも確実に起こりつつあります。

重要なことは、この変化が、IT サービス事業にとって根底を覆すインパクトを与えることです。すなわち、事業の根幹である“顧客”の多くが、従来の延長線上から消えてしまうためです。

● ITサービス事業別の変化

従来のIT サービス事業は、『ユーティリティー・コンピューティング』に移行した時、その変化は、下表のように捉えることができます。

項番	ITサービスの種類	定 義	何が変わるか	誰が顧客か
1	ITコンサルティング・サービス	ユーザー企業の事業続伸のために、いかにITを活用するかをコンサルティング。	従来と本質的な変化はなし。	ユーザー企業。
2	システム・インテグレーション (SI)	ITの企業への導入サービス。ハードウェアとソフトウェアの選定、ネットワークの敷設、ユーザー企業に応じたソフトウェアのカスタマイズや開発など、IT導入に関する全般的サービス。	ユーザー企業のデータセンターでの構築を対象としていたものが、iDC上のサイバー空間での構築へ移行する。	ユーザー企業。但し、iDC事業者が主導権をとりやすい。
3	システム・オペレーション (SO) (システム運用管理サービス)	ユーザー企業のデータセンターの管理・運用。	ユーザー企業が保有していたITリソースを対象としており、それらはiDCへ移行する。	ユーザー企業から、iDC事業者へ切り替わる。
4	サポート・サービス	ハードウェア保守やソフトウェア・サポート、システム監視と異常時対応、バージョンアップなどの情報提供、使用法に関する問合せ対応など、ITの運用フェーズに対するサービス。	エンド・ユーザーのITを除いて、ユーザー企業が保有していたITリソースは、iDCへ移行する。	ユーザー企業から、iDC事業者へ切り替わる。
5	マネージメント・サービス・プロバイダー (MSP)	システムの監視、運用と障害対応、性能評価とレポート、および、これらの分野のコンサルティングなどのサービス。	エンド・ユーザーのITを除いて、ユーザー企業が保有していたITリソースはiDCへ移行する。	ユーザー企業から、iDC事業者へ切り替わる。
6	アウトソーシング・サービス	ユーザー企業のデータセンター〔および、システム部門〕を、サービス企業が一括して買取り、ユーザー企業がITリソースを保有しない形態で、その業務を運用するサービス。	アウトソーシング・サービスは、ユーティリティー・コンピューティングへの進展の一段階。	ユーザー企業。

●『第9回 IT サービス・サミット・ジャパン』の狙い

今年の『IT サービス・サミット・ジャパン』は、このように、新たなパラダイムが出現しようとしている今、それは何であるか、どのような技術的進歩がそれを実現するのか、現実の進行状況はどうか、また、先進企業はどのように取り組んでいるのかなどを、明らかにすることによって、参加された方々が、我が社のIT サービス事業をどのようにすべきかの指針が得られることを目標にしています。

● 講演プログラム

第1日：6月23日(水)

UC: ユーティリティ・コンピューティング

	開始	区 分	講演タイトル	企業・団体	講演者
	9:15	開会の挨拶		国際サービス・マネージメント協会	副会長(アジア担当) 河本 公文
1	9:30	基調講演	ソフトウェア関連政策の動向	経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課	課長補佐 祝谷 和宏 氏
2	10:20	業界動向	日本のITサービス市場2004: 転換期を迎えるサービスモデル	ガートナー・ジャパン株式会社 リサーチ部門	バイスプレジデント 兼アナリスト 山野井 聡 氏
3	11:10	業界動向	ユーティリティ・コンピューティングがもたらす ITサービス事業へのインパクト	株式会社 サービス戦略研究所	代表取締役社長 河本 公文 氏
	12:00	(昼 食)			
4	12:50	UC 実現化	オンデマンド最前線 - 来るべきIT新時代に乗り遅れないための情報-	日本アイ・ビー・エム株式会社 ITS事業部 インフラストラクチャー・コンサルティング	担 当 阿部 渉 氏
5	13:40	取組事例	ユーティリティ・コンピューティングに向けた、 NEC『iBestSolutionsCenter』の役割と取り組み	日本電気株式会社 市場リレーション推進本部 iBestSolutionsセンター	グループマネージャー 高木 一 氏
6	14:30	取組事例	OCAのITサービス差別化戦略 ～ユーティリティ・コンピューティングに向けたOCAの挑戦～	株式会社沖電気カスタマドテック 企画室 マネジメント部	担当部長 阿部 省一 氏
	15:20	(休 憩)			
7	15:50	取組事例	コンピュータ保守業務の新たな付加価値 『サーバシステム簡易セキュリティ診断』	株式会社ITサービス 情報サポート&サービス事業部 サービスソリューション部	部長 技術士(情報工学) 櫻井 俊郎 氏
8	16:40	UC 実現化	ユビキタス社会における カスタマーフォーカシングサービス・インフラ	NECフィールディング株式会社	執行役員 坪 尚義 氏
9	17:30	取組事例	「ITSSユーザー協会」の活動とその目的	ITSSユーザー協会	専務理事 高橋 秀典 氏
	18:20	(移 動)			
	18:30	懇親会			
	20:00	終 了			

第2日：6月24日(木)

	開始	区 分	講演タイトル	企業・団体	講演者
	9:15	開会の挨拶		国際サービス・マネージメント協会	副会長(アジア担当) 河本 公文
10	9:20	業界動向	ユーザーの次の獲物はITサービス	日経BP社 日経ソリューションビジネス	主任編集委員 北川 賢一 氏
11	10:10	UC 実現化	EDSアジャイル・インフラストラクチャー -ユーティリティ・コンピューティングと インフラストラクチャーのアウトソーシング- (EDS Agile Infrastructure Utility Computing & the Outsourced Infrastructure)	EDS ジャパン LLC	代表取締役副社長 兼 COO ダグラス・M・ファウラー 氏 (Douglas M. Fowler)
12	11:00	UC 実現化	ITオートメーション -ユーティリティ・コンピューティングの基盤- (IT Automation - The Foundation of Utility Computing)	オプスウェア社 (Opware, Inc.)	副社長 兼 本部長 スコット・クーバー 氏 (Scott Kupor)
	11:50	(昼 食)			
13	12:40	UC 実現化	コスト・センターからバリューセンターへ - ユーティリティ・コンピューティングへの移行方法 - (Utility Computing - From Cost Center to Value Center)	ペリタス・ソフトウェア株式会社	取締役 マーケティング担当 ジェローム・ノール氏 (Jerome Noll)
14	13:30	UC 実現化	ユーティリティ・コンピューティングのための データセンター管理標準仕様の構築 (DCML) (DCML: Driving Utility Computing Standards)	データセンター・ マークアップランゲージ(DCML)協会 (DCML Organization)	スコット・クーバー 氏 (Scott Kupor)
15	14:20	UC 実現化	変化をチャンスにするアダプティブ・エンタープライズ戦略 ～ユーティリティ・コンピューティングの実現に向けて～	日本ヒューレット・パッカード株式会社 マーケティング統括本部	執行役員 統括本部長 古谷 幹則 氏
	15:10	休 憩			
16	15:40	取組事例	変化するシステム環境を吸収した オンサイトアウトソーシングサービス ～ 中規模市場に向けたITリソース管理サービスの提供 ～	富士通株式会社 システムサポート事業本部 サポート技術統括部	サポート技術開発部長 長谷川 満 氏
17	16:30	取組事例	進化するIT基盤とユニアデックスの取り組み -ITサービスはどうあるべきか-	ユニアデックス株式会社 市場開発部	部 長 杉本 福次 氏
18	17:20		オンデマンドアウトソーシングサービスについて	富士通株式会社 アウトソーシングビジネス推進本部 マーケティング統括部	部 長 有馬 啓修 氏
	18:10	閉 会			

● 参加料（1名様、消費税別）

（1）国際サービス・マネジメント協会会員（個人会員制）

- ￥69,500（発表資料、同時通訳、昼食、懇親会を含む）

- 分割参加：第1日目：￥49,500（2日分発表資料、昼食、懇親会を含む）

第2日目：￥49,500（2日分発表資料、同時通訳、昼食を含む）

- ご注意：会議の途中で、会員の方から会員でない方に代わられる場合は、会員であっても、「一般参加」でお申込み下さい。

（2）一般参加料

- ￥79,500（発表資料、同時通訳、昼食、懇親会を含む）

- 分割参加：第1日目：￥57,000（2日分発表資料、昼食、懇親会を含む）

第2日目：￥57,000（2日分発表資料、同時通訳、昼食を含む）

- 参加申込みと同時に当協会に入会される場合は、会員料金が適用されます。適用をご希望の方は、<http://www.afsmi.gr.jp/> で詳細をご参照の上、入会をお申込み下さい。

● 会場ご案内

● 社団法人 東京アメリカンクラブ

〒106-8049 東京都港区麻布台2-1-2

● 最寄駅

地下鉄日比谷線『神谷町』駅 2番出口

または大江戸線『赤羽橋』駅 中之橋口



● 参加お申込み

- 次ページのFAX用紙、または、当会議のウェブサイトでお申込み戴けます。

URL： <http://www.afsmi.gr.jp/summit>

国際サービス・マネジメント協会、ITサービス・サミット・ジャパン事務局

URL： <http://www.afsmi.gr.jp/summit>

電子メール： summit@afsmi.gr.jp

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-5 (2F) 株式会社 サービス戦略研究所 内

TEL/FAX: 03-3374-7990

第9回 IT サービス・サミット・ジャパン 参加申込書

- 下記「お申込み内容」欄に必要事項をご記入の上、事務局に FAX して下さい。
FAX： 03-3374-7990
ウェブサイトからでもお申込み戴けます。（URL: <http://www.afsmi.gr.jp/summit>）
- お申込みから開催当日までの流れ
 1. 事務局にてお申込み受付後、ご本人様宛に参加料の請求書を郵送致します。
 2. 参加料は、請求書に指定した日までに、指定銀行口座へ送金して下さい。もし、指定日までに送金ができない場合は、送金予定日を電子メールにて事務局にご連絡下さい。（summit@afsmi.gr.jp）
 3. 会議開催当日は、ご氏名と会社名を受付にてお申出下さい。会議資料をお渡しします。なお、当日は、名刺を2枚ご用意下さい。また、第2日目も、改めて受付け致しますのでご了承下さい。
- 6月16日（水）までに請求書が届かない場合は、電子メールにて事務局へお問い合わせ下さい。
- 6月16日（水）以降のキャンセルは、払戻し致しません。代理の方のご参加をお勧め致します。
- 講演者及び講演内容は、事情により変更される場合がありますので、予めご了承下さい。
- この用紙は、1枚1名様のお申込みにお使い下さい。

お申込み内容

以下の通り、第9回 IT サービス・サミット・ジャパンに参加を申込みます。

- ◆ ご氏名： _____（ふりがな）
- ◆ 会社名： _____（ふりがな）
- ◆ 部署名： _____
- ◆ 役 職： _____
- ◆ 所在地： 〒 _____
- ◆ 電 話： _____ ◆ FAX： _____
- ◆ 電子メールアドレス： _____
- ◆ 参加日： ☐ 6月23日 ☐ 6月24日（参加日にチェックをして下さい）
- ◆ 参加区分（該当する欄にチェックをして下さい。金額は消費税別）
 - ・ AFSMI 会員
 - ☐ 両日参加： ¥69,500. ☐ 23日または24日の1日のみ： ¥49,500.
 - ・ 一般参加
 - ☐ 両日参加： ¥79,500. ☐ 23日または24日の1日のみ： ¥57,000.
 - ・ ☐ 協賛企業で招待（2名/社）

FAX： 03-3374-7990